

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103403		
法人名	有限会社 ぼ～れぼ～れ		
事業所名	民家型宅老所 ぼ～れぼ～れ松が枝	ユニット名	1
所在地	長崎市松が枝町3番23号		
自己評価作成日	平成30年12月27日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年3月11日	評価確定日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年5月1日に、現地建て替えて、4階建てでリニューアルオープン致しました。外観は景観地区にふさわしいレンガ色で、会社の色で、認知症カラーでもあるオレンジの帯を入れました。ご利用者の方々の終の棲家という意識で、敢えて看板は出さずに、表れにしました。玄関を入ると、木目調の玄関ホールに手すり柵風です。室内への出入り口は軽いふすまのような感じで、開けるとディのフロアと真ん中にキッチンがあります。建物内はほぼ畳敷きで、車いすでの畳への負担も考えて、車いす用の畳を敷いてあり、それは、1階～4階まで変わりません。1階～4階までのトイレのドアはすべて同じ色に統一し、3階、4階の居室は、隣同士の居室はすべて違うドア色で、居間からそのまま畳が続き、4階の居間は掘りごたつになってます。新築だけど、中に入ると何だかホッとする空間になるように、工夫しました。スタッフは開所当初から勤務してくれているスタッフも多く、馴染みの関係を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和の時代から多くの思い出が詰まった『家』『民家型宅老所 ぼ～れぼ～れ松が枝』がリニューアルオープンした。長年大切にされてきた「地域」の中で「大きな家族」として「地域行事を大切に」「その人らしさをひきだす介護」は変わっておらず、玄関わきのベンチもそのままである。ご利用者が9名に増え、居室が3階と4階になったことで、エレベーターが新たに設置されており、ご利用者と一緒に屋上に上がり、青い空を眺め、思いっきり空気を吸い込み、洗濯物を取り入れながら、最高の景色を楽しまれている。1つ屋根の下に認知症デイもあり、同じ趣味の利用者同士で囲碁や歌、レク等を楽しまれている。職員同士も連携し、「目配り、気配り、心配り」を心掛けると共に、ご利用者の有する能力と自立支援を大切にされている。「サービスが必要な理由」を繰り返し考える訓練が行われ、ケアプランの達成状況を数字(%)で「見える化」している。「毎日が敬老の日」と考えており、ご利用者個々の尊厳と「その人らしさ」を大切にしたい関わりを続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	自己評価		外部評価		
	実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に、その日の勤務者で唱和し、頭において状態で勤務に入るようにしています。	馴染みの職員が多い中、移転後も【介護理念】にある『目配り、気配り、心配り・・・』等の振り返りが行われ、個別ケアを心掛ける話し合いが行われた。『その人らしさを ひきだす介護』も大切にされており、ご利用者の生活歴や仕事を把握し、行動の背景を理解するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元中学校の総合学習に協力させて頂いたり、認知症や介護職・医療職に対する啓蒙活動の一環として、地域とのつながりと継続していくという事を大切にしています。	市民大清掃や地域の行事、祭りに参加しており、保育園児や中学生との交流も継続している。保育園の遠足に一緒に行かれたり、園児の慰問もあり、ご利用者も一緒に楽しまれている。新しいホームの玄関は、子ども達が“おくんち”の時に「金魚すくい」ができるように設計されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回の認知症の人と家族の会の集いでは、スタッフ数名が研修として参加し、記録のサポート等行いながら、相談スキルアップの研修を行っています。集いの中では事業所ではありますが、ご本人とご家族の視点で、中立の立場でお話を伺っています。またそのような場である事を、地域の方々にもお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は身体拘束・虐待の勉強も少しずつしながら、開催してます。資料を作成しお渡しして一緒に勉強させて頂く事で、身体拘束や虐待に対しての理解も深まってきています。	30年4月に新築のホームで「お披露目式」が行われた。その後の会議でも日々の活動や行事、ヒヤリハット等の報告が行われ、地域情報も教えて頂いている。地域の方の要請で、お祭りの時に手作りの「水羊羹」を出店できたり、地域の方から相談を受ける機会になり、包括等の紹介も行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市議会議員の方が、時々訪問してくださり、色々なお話や相談に乗ってくださっています。運営推進会議でも毎回、市の職員が参加してくださっていて、市町村担当者と良好な関係を築けています。	代表(管理者)や総括が、市役所や地域包括との連携を深めてこられた。認知症サポーター研修の講師依頼を引き受けたと共に、「認知症の人と家族の会」への相談内容を管轄の地域包括に紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。スタッフ間で目と言葉を密にして予防し、研修会でも話し合いをしています。	穏やかに過ごされている方が多いが、行動障害の原因を丁寧に把握し、その都度の思いを傾聴している。感情が不安定になられた時は、屋上で気分転換したり、散歩をされている。近くの交番に挨拶し、もしもの時に備えて、声を掛けて頂く関係が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で虐待の研修を受け、カンファレンスで話し合っ、虐待防止に取り組んでおります。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方が、ご入居されており、内容についての学びの機会と、年に1回程度ではありますが、実際に後見人の先生に、研修を依頼しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を用いて、説明を行っております。その後は、連絡を密に取り合っており、ご本人とご家族が安心して過ごせるように、取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な外泊をされる方には、連絡帳を用意して、情報をご家族と共有しています。こちらでの生活の様子を、遠方のご家族に、お写真や、メール等でお知らせし、ご要望を伝えて頂ける様な環境づくりに努めています。	家族にはメールやラインで暮らしぶりを報告し、写真等も添付している。面会時にも意見を頂き、「認知症の人と家族の会」の紹介や集いのご案内も続けている。家族から「本人ができる手伝いをさせてほしい」等のご意見を頂き、介護計画に盛り込まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回のカンファレンスは全職員の意見を聞いたりしている。個人面談をして意見を聞くようにしている。	代表、総括責任者、総務担当者は職員の意見を大切にされており、職員個々の長所を見つけて引き出すように努めている。ホームの建て替えに伴い、2年間で2回の引っ越しを経験しているが、全職員が結束し、大きなイベントを乗り越えてこられた。運営者も職員の頑張りを高く評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に応じて、勤務時間、勤務内容、希望休や希望する研修や、資格取得に向けて、柔軟に対応するようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の資格や経験等に応じた研修の参加を促しており、どういう勉強をしていきたいか、希望を取り入れながら、学べる環境づくりをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市包括ケアまちなかラウンジ主催の介護職員向けの研修や長崎在宅Dr.ネットの研修、症例検討会の研修等の振り返りを伝達研修で行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を把握するために、チームケアで、ご利用者1名に2名の担当スタッフとグループホーム担当ケアマネ、及び計画作成担当者が中心となり、本人の意向を情報ファイルなどで、共有しご本人が安心できるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に施設見学をして頂き、現在お困りの事、不安な事、ご要望等に耳を傾け、当事業所の理念等をお話しさせて頂き、不安の軽減に努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅介護歴17年の管理者を始め、介護支援専門員、認知症ケア専門士がじっくりとお話を伺い提案等させて頂いています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事を活かしながら、負担にならない程度の役割を担って頂き、ご本人にとって、やりがいを感じられるような、そして、安心して出来る生活が送れるよう支援しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族が共に「今」を共有して頂ける様にパイプ役として関係性の継続を心がけて努めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がご家族や知人・友人を認知出来なくなったとしても、関係継続は大切な事と捉え、その支援に努めています。	馴染みのお祭り(ランタン、蛇踊り、諏訪神社でのお餅つき)等にお連れし、会話が弾む機会になっている。ご本人の希望で幼少期に過ごされた場所を訪問(家族も一緒に)したり、以前行かれていた「浜町」や馴染みの理髪店にお連れする方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味の利用者同士で、囲碁や歌などを通して関わり合う時間を意図的に作るようにしています。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所で、看取りをさせて頂いた方のご家族が、イベントのお手伝いや、歌のボランティアで来て下さったり、遠方のご家族が、お墓参りで帰省された時に、寄って下さったりと交流があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週1回のカンファレンスや日常の勤務の中で、全スタッフで気付きや課題等を出し合って、介護支援専門員を交え、担当者と協議して、ご本人やご家族の想いや意向の把握に努めています。	センター方式やオリジナルシートを活用し、行動の背景にある思いの把握に努めている。必要に応じて“私の気持ちシート”や“気分の変化シート”も活用し、アセスメントに活かしている。ご本人と家族の思いを大切にされており、解決策の検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中や、ご家族からの聞き取りで、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、着目した項目で気付いた事を情報ファイルに記入し、スタッフ同士で、共有する事を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に1回のカンファレンスの他にも、気付いた事などはその都度、情報ファイルに記載し、情報の共有を図っています。	チーム担当制でアセスメントと計画作成を行い、全職員で話し合っている。ご本人の力を見極め、できる部分を増やしており、移動時や排泄の自立支援や見守りも丁寧に行われている。「食器拭き」「おやつ作り」「配膳」「将棋」「囲碁」「塗り絵」「レクや体操」等も日々行われている。	日々の記録をする時に、常に介護計画を確認できる。今後も計画内の「家事」を詳細に記入していくと共に、介護計画と日々の実践状況を統括していくシステムを作り、計画の実践率の向上に繋げていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方々に合った記録用紙を使用しながら、状態の変化に応じて、記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズ、ご家族のニーズに合ったサービスを話し合いながら、決めています。定期的な外泊を希望されているご家族とは、連携が取れるよう、連絡帳等で日々の状況が少しでもご家族が把握出来る様、支援に取り組んでいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩外出時等にも、近所の方から声を掛けて頂く事も多く、地域の皆さんに見守って頂いているのを、感じます。その為にも、地域の一人として地域行事にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診時は必ずスタッフを同行し、医師との連携を図っています。協力医療機関受診の時は、初めにご家族も同席して頂き、主治医とも会って頂き関係性が築けるよう、支援しています。	全員往診を受けている。受診時は看護師や職員が通院助し、家族と受診結果を共有している。歯科医師の訪問診療もあり、全ての医師等と連携できている。日々の詳細なアセスメントも素晴らしく、早期発見と適切なケアに繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、気付いた事や情報を介護職と看護職で綿密に連携を取り、医療機関へ情報を伝え、本人にとって適切な受診や介護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、入院中の主治医ともコンタクトを取れるように努め、情報交換や相談に努め、安心して治療出来る様、又早期に退院出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を頂いていますが、状況変化時にも必ず再確認をしていくようにしています。その際に、当事業所で出来る事、出来ない事を明確化してお話をさせて頂いています。その内容をカンファレンスにてスタッフ間で共有しています。	全員の方が「最期までぼ～れぼ～れで・・・」と希望されている。『長崎在宅Dr.ネット』の医師に24時間相談でき、往診も受けられる。ホームには4名の看護師が勤務し、介護職と連携し、密な話し合いが行われている。家族とも連携し、最期まで誠心誠意のケアが行われ、安らかな表情でお見送りをする事ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にも落ち着いて対応や報告が出来るようにカンファレンスでも指導と再確認を行い、実際に経験を積み重ね、実践されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に利用者の避難誘導方法をスタッフ間で話し合い、確認をしている。自主訓練の際には実際に利用者を避難誘導し、反省点なども話し合っています。	毎月の訓練と共に、30年8月と31年2月は消防署と一緒に訓練が行われた。エレベーターが使えない状況も想定し、ホーム内の非常階段やベランダへの一次避難場所への避難も行われた。町内会や老人会の方も訓練に来て下さり、避難時の見守りをして下さった。災害に備えて100食程や飲料水24L等を準備している。	認知症デイの宿泊者もおられ、夜間は職員2人体制であり、夜間の連絡リーダーも決まっている。新築の建物であり、今後も更に災害時の詳細な避難マニュアルを作ると共に、31年度は夜間想定で、ご利用者と一緒に避難訓練を行う予定である。非常食も準備しているが、最適な保管場所の検討も行う予定である。

自己 外部		自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方が長年培ってきた経験や体験を尊重した言葉掛けを常に心がけながら、対応している。	「明日は会えない事もあるので、今を一生懸命に・・・」という言葉を経験者に伝えている。その方にとって心地良い言葉を選ぶように努めているが、余裕がない時などに少し語尾が強くなる時があるとのこと。職員が自ら気づき、反省すると共に、ホーム内研修で振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	“どうしましょうか？どうしたいですか？”と柔らかく言葉かけを行い、ご本人の気持ちを表現しやすいような雰囲気作りを心掛け意欲UPにつなげていけるよう、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝から、ご利用者様一人一人と挨拶を交わし、その際に、体調等の変化や気分を見ながら、一日の計画を一緒にたてている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに応じた衣類の選択や、おしゃれが出来る様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(他利用者に対して)食事介助(声掛け・促しを含む)が、可能な利用者に、介助に入ってもらっている。当人の認知機能に応じて、ワンプレートや丼状に盛る等して、自分で食べられるように工夫している。	歯科医師から摂食嚥下のアドバイスを頂いている。栄養士と調理師が旬の料理を作って下さり、誕生日は「ちらし寿司」等を楽しまれている。ご利用者もツツやフキの皮むき、モヤシの根取り、食器拭きをして下さる方もおられ、今後も「下ごしらえ」の機会を増やす予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の身体状況に合わせた食事形態を選択し、完食できるようにしている。水分摂取も、個々人の身体状況を把握した上で、好みを考慮しゼリーやストロー等物品の工夫もしながら、摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による、定期的な口腔ケアと共に、そのアドバイスを基に、個々の必要性に応じた口腔ケアを実施しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握の上、トイレ誘導し、日中は布パンツ使用で快適に過ごせるよう支援しています。	自尊心と羞恥心の配慮も素晴らしく、昼間は全員布パンツを使用している。必要時の誘導も行い、失禁はほとんどないとのこと。居室からトイレまで全て畳であり、尿意等に応じてご自分で両手両足を使って移動される方もおられ、職員の見守りの中でトイレに座られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事摂取を気掛け、日中の活動量の確保に気を付ける等している。又、腹部マッサージやホットパック等により、働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴による疲労の影響や、精神的に安定している時間帯等や、元来の入浴時間帯などを考慮しながら、個々人に合わせた対応を支援しています。	入浴習慣(湯温等)を把握している。入浴による疲労や体調等を考慮し、入浴時間を調整しており、体調に応じてリフトも使用できる。湯船に浸かり、楽しい会話をされており、季節に応じて菖蒲湯も楽しまれている。希望に応じて同性介助も行われ、自分でできる範囲は洗われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の気温での室温調整、湿度調整をしています。他、寝具や寝衣も季節や本人の体調に合わせた対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	総括責任者と薬担当スタッフ(2名)薬局薬剤師(1か所)と全職員が臨時薬や薬の変更・増減に関して、情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴、好きな事の把握に努めるとともに、本人の好みの活動を日常の中でも発見するような取り組みを心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者が希望した時に、スタッフがついて安全に出かけられるよう支援している。玄関わきにベンチ設置し、気軽に日向ぼっこできるようにしている。	毎年恒例の“初日の出”を拝むことができている。日々の生活では外の縁側でおやつを食べたり、散歩や買い物、季節の花見に行かれている。ご自分で選べるように回転寿司も楽しまれている。港祭りの花火大会、ランタン、平和祈念式典、帆船祭り、大浦諏訪神社での子供の日の餅つき等にお連れしており、家族もお誘いしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に不安が生じないよう、金銭管理については、配慮しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望されるのはなかなか難しいが、こちらから働きかけを行い、遠方の娘さんや、お知り合いと、お電話やお手紙などのやり取りが出来る様に、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期の節目(お正月/花見時期/七夕/お彼岸)には、相応しい飾りをしている。室内の温湿については、温湿計で数値を確認し、換気等も配慮しています。	1階のリビングは認知症デイの方との団欒の場になっており、2階に浴室がある。ホームの居室は3階と4階にあり、エレベーターを利用し移動している。照度の調整や白色光・暖色光の調整ができる照明であり、インフルエンザ指標計等がある温湿度計を使用し、換気も行われている。屋上で洗濯物を干したり、周囲の景色を一望できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々人の性格見極めながら、気の合いそうな利用者同士、一緒に座って貰ったり、一方聴覚が敏感な利用者には、適宜静かな環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は、ご家族とご本人で選んだものを使用したり、趣味で使用していた物(囲碁盤)やバック等小物を持ち込んで頂いている。	隣同士の居室はドアの色を変えており、職員がステンドグラス風に手作りしたものをドアのガラスに貼られている。居間と居室は段差が無く、そのまま畳が続いている。各居室は明るく、見晴らしも良く、家族の写真や本、衣装ケース、筆筒などを置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まずは介護者が先入観を持たずに、個々人の残存能力、潜在能力に着目した関わりの中で、安全に、ストレスが少なく生活が送れるよう、支援しています。		